

2021年全日本ロードレース選手権第5戦 MFJ-GP 参戦報告書



**国内最高峰の全日本選手権にSRS-Motoのライダー3名が挑戦
混戦の中で渾身の走りを繰り広げ、新たな課題も見出した!**

7月17日(土)公式予選 9:35~10:05 ◎天候・路面:Fine/Dry

#19 江澤伸也・予選16位

#51 堀井颯大・予選17位

#53 中村煌・予選25位

鈴鹿サンデーロードレース選手権J-GP3クラスにフル参戦することで実戦経験を重ねるSRS-Motoアドバンス生らは、スキルのさらなる向上等を目的とし、例年全日本ロードレース選手権にもスポットで参戦している。7月17、18日に開催された全日本ロードレース第5戦MFJ-GPには、目下サンデーロードレースで3連勝を飾る江澤伸也がチャレンジクラスで、特別参加枠ライダーとして堀井颯大、中村煌の3名がTeam SRS-Motoから参戦した。

不安定な天候に見舞われた前日までとは打って変わり、予選が行われた17日は真夏の日差しが降り注ぐ。江澤、堀井、中村の3名は、自身の実力が全日本のレベルでどの位置にあるのかを確認するため、あえて単独での走行にトライ。江澤は早々に2分22秒前半を記録するが、以降タイムは伸び悩む格好に。最終的には6周目に記録した2分22秒027がベストとなり、予選16位から上位進出を狙う。この日は強風が吹いていたため、長身の堀井はトップスピードが伸び悩むものの、ライバルのスリップを使うことでタイムを22秒041へと伸ばし、江澤に続く17番グリッドを獲得した。中村は練習走行ではやや苦戦したというが、それでも22秒台となる22秒816を記録。初の全日本戦の予選を25位で終えている。

7月18日(日)決勝レース(フルコース13周) ◎天候・路面:Fine/Dry

#19 江澤伸也・12位

#53 中村煌・21位

#51 堀井颯大・33位

前日と同じく強い日差しの中、13週の決勝がスタート。予選16位の江澤は1周目を15位で通過し、その後は集団の中で一進一退を繰り返す。堀井は1周目、数台に先行されてしまい、追い上げの最中、4周目の日立Astemoシケインでスリップダウンしてしまう。中村は上々のスタートで1周目を23位で通過。その後一度は順位を下げるが、中盤以降徐々にポジションを回復する。

集団の中から抜け出せない江澤だったが、9周目には満を持して13位にまでポジションをアップ。だがライバル勢もそんな江澤を簡単に逃がさない。数台のバックのバトルは最終ラップにまでもつれ込む。果敢に集団の前を狙う江澤は最終ラップで集団の前に出るものの、日立Astemoシケインで同じSRS-Motoアドバンス生で、今回は別チームでエントリーしていた小田喜阿門に先行され、12位でのチェッカーとなった。江澤はチャレンジクラスでは1位という結果となり、特別参加枠の小田喜とともに表彰台に登壇した(写真左)。中村は集団の中での接触で右ハンドル付近に違和感を覚えながらの走行となったが、最後まで集中を切らさず走り切り、予選順位を上回る21位、特別参加枠2位でレースを終えた。堀井は転倒後マシンをピットでまで戻して再スタートし、チェッカーまで走り切った。



2021年全日本ロードレース選手権第5戦 MFJ-GP 参戦報告書

全日本J-GP3クラス：予選16位/決勝12位(チャレンジクラス1位) 江澤伸哉(えざわ しんや) 15歳

『今回はさらにタイムを伸ばすためにサスペンションのセットをサンデーの仕様から変えて臨みました。ですがそのセットを詰め切れず、タイムもベストからは程遠い状態でした。予選ではこれまでの課題だった単独でのタイムアップを狙いましたが、思うようにタイムは伸びず、冷静さを失っていました。タイムが出なければ気持ちを切り替えて、速いライダーについていくという選択をするべきでした。決勝ではいいスタートを切ることができましたが、ペースを上げることが出来ず、結局1周目にパス出来たのは2台だけでした。1周目にどれだけペースを上げられるのが今後の課題です。決勝では予選を上回る2分21秒533というタイムを出せましたが、タイム以前に走りやセットアップなど課題が多く残りました。これらの課題は次戦のサンデーに向けて改善しなければいけませんし、プライベートで参戦する予定の岡山の全日本戦でもいい結果を出すことができません。この夏休みの間、SRSでの練習も含め、各課題に重点的に取り組むつもりです』



全日本J-GP3クラス：予選25位/決勝21位(特別参戦枠2位) 中村焯(なかむらこう) 16歳

『ウェット路面だった1本目の特別スポーツ走行では上位で走れましたが、ドライになった2本目では、ウェットからドライへの切り替えが出来ず、転倒してしまいました。予選は単独で走りましたが、強い風でリズムを保つのが難しかったです。決勝レースは、サンデーと比べると台数が多く、パッシングポイントを探るのに苦労しました。台数が多い中でのペースのつくり方、タイムの上げ方など、今回は学ぶことがたくさんありました。この経験を次のサンデーで生かして結果に繋げたいです。あらためて全日本選手権という大きな舞台で走らせていただき、SRS-Motoの先生方やチームスタッフ、メカニックの方々には本当に感謝しています』



全日本J-GP3クラス：予選17位/決勝33位 堀井颯大(ほりい そうた) 16歳

『今回は反省点が多いレースでした。レースに向かう姿勢というものを改善しなければいけません。考えて走ることが出来ず、自分の良い部分も発揮できませんでした。練習で苦戦したので、予選は気持ちを切り替えて挑んでいます。全日本レベルの中で自分の実力をはかりつつ、これまで練習してきたことを試すため、単独で走ることを意識しました。強風の影響で苦戦しましたが、途中で先行されたライダーのスリップに付くことでタイムを出しました。決勝では、事前の作戦やレースの組み立てが出来ず、ストレートで離されてコーナーで追いつくという、いつものパターンに陥りましたが、スタートから1周目までがいかに大事かということあらためて痛感しています。4周目の転倒も、荷重が抜けた状態で加速してしまったため、完全に自分のミスでした。今回のレースは、自分の向き合い方、レースへの取り組み方が問題点です。バイクについてしっかりと考え、そして行動に繋げること。そういったことを意識して次のサンデーロードレースに挑みたいです』



2021年全日本ロードレース選手権第5戦 MFJ-GP 参戦報告書

岡田忠之 Principal

『3人とももう少し上のほうで戦えるのかと思っていましたが、結果はいまひとつでしたね。江澤は予選以上の順位でゴール出来たのは良かったんですが、それでも世界を目標とするのであれば、スピードがまだまだ足りません。普段の練習から高いレベルの走りを意識して実践していかないと、全日本戦という舞台でもなかなか通用しませんね。また堀井は今回転んでしまいましたが、ひとまずケガが無くて安心しています。彼は身長が高いのでストレートでは速度が伸びず、この状況からなかなか脱却できません。中村も後半はラップタイムを大きく落としてしまい、こちらが期待した走りは出来ていませんでした。今年からデータや映像などで解析をして進めています、まだまだ結果には結びついていません。さらに速くなるためには普段の練習でどれだけ高い目標を持つのが大切です。今後はそういった点もより意識して彼らと向き合うつもりです』

